

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意下さい。

農作物技術情報 第7号 畑作物

発行日 平成28年 9月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net/agri/>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ **大豆** 気温が高い状況が続いていたこともあり全体に黄化・落葉はやや遅めです。しかし今後は圃場観察をこまめに行い、成熟状況の確認、雑草の抜き取り、圃場排水の徹底など、適期収穫に向けた準備をすすめましょう。また、台風の動向に注意し、収穫作業に支障が出ないように注意しましょう。
- ◆ **小麦** 小麦の播種適期となっています。適期を逃さず確実に作業を行い、生育量の確保に努めましょう。圃場条件が整わず適期を逃した圃場では、播種量を増やし、目標株立数の確保に努めましょう。

大豆

1 生育の状況

開花期から9月中旬まで平年より気温の高い状況が続いたこともあり、全体に黄化・落葉は遅めです。8月中旬以降、台風の襲来が続き、多量の降水による湿害、強風による茎葉の折損などが広く生じました。この影響もあり、べと病、葉焼病や斑点細菌病などが各地で見られました。

また湿害に伴って発生しやすい茎疫病や黒根腐病の発生も目立ちました。

今年度の生育前半は、湿害や日照不足で生育がやや停滞しましたが、開花期以降は高温・多照条件が続き、現在は平年並の生育を確保しています。しかし、8月中旬以降の多雨によりぬかるんでいる圃場も目立ち、また台風による強風の影響で倒伏も見られます。

県北部の複数の大豆圃場で、昨年に引き続きシストセンチュウの発生が確認されました。連作圃場、あるいは抵抗性弱品種(シュウリユウ、コスズ、すずほのか、青丸くん他)、えだまめの作付履歴のある圃場などでは注意が必要です。

2 収穫作業の前に

(1) 台風対策

この時期は台風が発生しやすいので、気象情報を確認し状況に応じて排水対策、施設の保守点検など、事前事後対策を徹底してください。

(2) シストセンチュウ被害の確認

収穫前に圃場を観察し、湿害生育不良株(地上部が退緑、黄化等)が部分的に局在し、畦に沿って広がっていないかなどを確認します。湿害を受けていないにも関わらず、このような症状が見られる場合はシストセンチュウの可能性がります。株を引き抜いてみて、シスト(卵の詰まった殻)の有無を確認してください。発生が確認された場合は、汚染土壌の拡散を防止するため農業機械等の洗浄を徹底するとともに、汚染程度の高い圃場の収穫は後に回します。

(3) 除草

アメリカセンダングサ、シロザなどの大型雑草は、収穫時に汚損粒の発生原因となるので、収穫前に取り除きましょう。また、イチビなどは種子発生量が極めて多いので確実に搬出しましょう。

(4) コンバインの清掃・調整

収穫作業の前には必ず清掃点検を実施し、作業に支障が出ないか確認しておきましょう。

また、土をかみ込んだ時など収穫作業中でもコンバインの清掃が必要となることがあるので、清掃のポイントを把握し、効率的に行えるようにしておきましょう。

(5) 乾燥・調製施設の確認

乾燥・調製施設を利用する場合には、その稼働計画について確認し、圃場の様子を踏まえた上で、刈取りの順番、収穫機械やオペレーターの確保等、準備をすすめましょう。

3 収穫

(1) 成熟期の判断

適期収穫の第一歩は、成熟期を正確に判定することです。成熟期は次の2つから判断します。

- ア 圃場のほとんどの株で、大部分の莢が熟色になっている
- イ 莢の中の子実が乾燥子実の形になっている

莢を振ってカラカラ音がするようになったら、数カ所で実際に莢をむいて確認します。成熟期を確認したら、表1を参考に収穫作業に入ります。

表1 成熟期からコンバイン収穫適期までの日数

品種	成熟期からコンバイン収穫適期までの日数		
	早限	晩限	収穫(適)期間
コスズ、すずほのか	7～10日後	30日後	20～23日
ユキホマレ	7～10日後	20～25日後	10～18日
ナンブシロメ、スズカリ	10日後	20～25日後	10～15日
リュウホウ	10日後	20日後	10日
青丸くん	10日後	16日後	6日間前後

※刈遅れると「リュウホウ」はしわ粒が発生しやすくなり、「青丸くん」は子実の色抜けが生じることから、収穫適期間になったら速やかに収穫します。

※シュウリュウは成熟後、やや裂莢しやすいので収穫適期に達したら速やかに収穫しましょう。

(2) コンバイン収穫のポイント

ア 収穫時の茎水分は50%以下

茎水分が50%を超えると、こぎ胴で茎が揉まれ茎汁が発生し、汚損粒の発生原因となります。茎水分50%以下の目安は、分枝が手でポキポキと折れるときです。このため、青立ちした株は必ず抜き取ってください。

イ 収穫時の子実水分は18%以下

収穫時の子実水分は、損傷粒の発生に大きく影響します。子実水分が20%以上と高すぎる場合は、つぶれ粒を主体とする損傷粒が多くなり、15%以下と低すぎる場合は、裂傷や割れ豆などの損傷粒が多くなる傾向があります。

ウ 収穫の時間帯は茎葉がよく乾いた頃

晴れた日の場合、午前10時過ぎ～午後5時頃までが目安です。

4 乾燥

(1) 乾燥

子実水分が高いものを急速に乾燥させると、裂皮粒やしわ粒発生の原因となります。子実水分を均一に低下させるよう、送風温度等に留意しましょう。

(2) 被害粒発生のしくみ

被害粒のうち、裂皮粒(皮切れ粒)は、収穫前に大豆の生理的要因により種皮が部分的に裂けて生じるもの(例:莢数不足あるいは刈遅れによる過熟が発生するもの)と、高温通風など乾燥調製時の急激な乾燥によって生じるものに大別されます。

しわ粒は、子実のへその反対側の子葉組織と種皮がギザギザになる「ちりめんじわ」と、種皮が吸湿により亀甲状に隆起する「亀甲じわ」に大別されます。「ちりめんじわ」は主に、生育後半の栄養凋落が激しいほど発生しやすく、この時期の栄養状態の改善が対策となります。「亀甲じわ」は子実形成から収穫期前後までの乾燥・吸湿の過程で、皮と子実の収縮・伸長の繰り返しが原因で生じますので、刈遅れを避けることが対策につながります。

5 その他

(1) 紫斑病対策

成熟期以降、刈取りが遅れると紫斑粒が増加しますので、刈遅れを避けることが重要です。

また、ビーンカッターや手刈りで収穫した場合、速やかに脱穀・乾燥を行いましょう。島立てやハウス乾燥中の刈株も、朝露や湿気などにより紫斑粒が徐々に増加することが知られています。

小麦

1 小麦の播種適期を迎えています

例年、播種が遅れ生育量が足りないまま越冬する小麦圃場が多く見受けられます。表2を参考に適期を逃さず作業を行い、生育量の確保に努めましょう。

また、26年産、27年産と春期に降水量が少なく干ばつ傾向が見られました。干ばつ被害を軽減させるためには、根張りをよくすることが重要です。根張りを良くして、干ばつ被害を軽減させる方法としては、①晩播を避ける、②浅播きを避ける、③過湿条件では播種を行わない、④深耕する、⑤有機物を施用する、⑥踏圧を適切に行う、などが挙げられます。

表2 県内の地帯別播種適期

地帯	播種期 (月. 日)		適期日数 (日間)
	早限	晩限	
高標高地	9.15	9.25	11
県北部	9.15	9.30	16
県中部及び沿岸北部	9.20	10.5	16
県南部	9.25	10.20	26

ナンブコムギは、縞萎縮病に弱いいため、例年縞萎縮病の発病が見られる圃場で作付けをすると、播種時期の気温が高いほど翌春の発病程度が高まり、減収します。このような圃場でやむを得ず連作をする場合には、適期内でできるだけ晩播とすることが被害軽減に有効です。しかし、適期を過ぎた晩播は根張りが劣り、湿害や干ばつ被害を受けやすくなりますので注意して下さい。

2 もしも適期を逃したら・・・播種時期が遅れたときの考え方

- (1) 播種適期を守るのが基本ですが、圃場条件が悪い場合、無理に播種しても出芽不良を招きますので、その場合は作業を見合わせましょう。
- (2) 適期が過ぎてしまった場合は、各地帯の播種晩限から1週間遅れるごとに10%播種量を増やし、目標株立数を確保できるよう努めましょう(表3)。

表3 品種別の播種量と目標株立数

品種名	播種量 (kg/10a)		目標株立数 (株/m ²)	千粒重 (g)
	ドリル播	前面全層播		
ナンブコムギ	4~6	5~8	75~120	41
ゆきちから	6~8	8~10	120~160	39
ネバリゴシ	6~8	8~10	130~170	37
銀河のちから	6~8	—	(120~160)	39.2
ファイバースノウ (大麦)	6~8	8~10	130~170	38

注) 播種粒数に対して株立率を80% (前面全層は64%) として算出。

3 排水対策を万全に

水稻の刈取り後、小麦を作付けする圃場については地表水の速やかな排水を促すため、できるだけ早く額縁明渠を設置しましょう(→必ず排水路につなげて下さい)。

圃場内明渠は、播種後に実施することも可能です。十分な準備ができない場合、播種後の施工も想定しておきましょう。

次号は10月27日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日~11月15日は
秋の農作業安全月間です**

気をつけて！ 互いに声かけ 農作業安全

中央農業改良普及センター・地域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。